

第1節 攻下薬（こうげやく）

攻下薬の多くは薬力が猛烈で、かなり強い瀉下作用をもつ。薬性が苦寒のものが多く、通便するだけでなく瀉火にも働くので、実熱積滞・燥屎堅結に適し、峻下熱結・瀉熱通腸の効果をあらわす。裏寒の冷積便秘にも温裏薬とともに使用でき、腹満など気滞が強ければ理気薬を配合するのがよい。

苦寒攻下薬は、外感熱病の高熱・意識障害・うわごと・狂躁状態、火熱上攻の頭痛・目の充血・咽喉の腫脹疼痛・歯齦の腫脹疼痛、火毒の瘡瘍（化膿症）、血熱の鼻出血・吐血などにも、便秘の有無にかかわらず使用することがあり、実熱を清除したり下行させることにより効果をあらわすので、「上病治下」「釜底抽薪（釜の下から薪をひきぬく）」と称する。また、湿熱による下痢してすっきりしない・裏急後重などの症候にも使用し、湿熱を清除し食積を除くことにより下痢を止めるので、「通因通用」という。

このほか、「六腑は通をもって用となす」「通じればすなわち痛まず」という理論により、急性腹症にも使用して良好な結果を得ている。

■ 大 黄（だいおう）

【処方用名】 大黄・錦紋・將軍・川軍・生大黄・生軍・生川軍・生錦紋・酒大黄・酒川軍・酒軍・酒洗大黄・製大黄・製川軍・製軍・製錦紋・熟大黄・熟軍・大黄炭・ダイオウ

【基 原】 タデ科 Polygonaceae のダイオウ属植物 *Rheum palmatum* L., *R. tanguticum* Maxim. et Regel および *R. officinale* Baill. またはそれらの種間雑種の根茎。しばしば根も利用される。

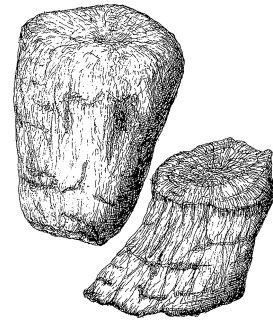
【性 味】 苦，寒

【帰 経】 脾・胃・大腸・肝・心包

【効能と応用】

①瀉熱通腸

胃腸の実熱積滞による便秘・腹痛・高熱・意識障害・うわごとなどの症候に、芒硝・枳実・厚朴などと用いる。



【方剂例】 大承気湯・小承気湯・調胃承気湯

大腸湿熱の下痢・腹痛・テネスマスなどに、黄連・黄芩・白芍・木香などと用いる。

【方剂例】 芍薬湯

食積の下痢してすっきりしない・腹満・腹痛などの症候に、木香・檳榔子・枳実・青皮などと使用する。

【方剂例】 木香檳榔丸・枳実導滞丸

寒積の便秘・腹痛・冷え・脈が沈遅などの症候にも、温裏の附子・乾姜などと使用する。

【方剂例】 温脾湯・大黄附子湯

②清熱瀉火・涼血解毒

火熱上亢による目の充血・咽喉の腫痛・歯痛あるいは血熱妄行による鼻出血・吐血など、上部の火熱の症候に、黄芩・黄連・山梔子などと用いる。

【方剂例】 三黄瀉心湯・涼膈散・当帰竜薈丸

腸癰（虫垂炎など）に、金銀花・連翹・牡丹皮・桃仁などと使用する。

【方剂例】 大黄牡丹皮湯・闌尾化癰湯・闌尾清化湯・闌尾清解湯

癰腫疔瘡（皮膚化膿症）にも、野菊花・蒲公英・連翹・金銀花などと使用する。熱傷や皮膚化膿症に、単味であるいは地榆とともに粉末にして油で調整し外用する。

③行瘀破積

血瘀による無月経や産後瘀阻の腹痛に、桃仁・紅花・麩虫などと用いる。

【方剂例】 無積丸・下瘀血湯

打撲外傷による腫脹・疼痛に、桃仁・紅花・穿山甲・乳香・没薬などと使用する。

【方剂例】 復元活血湯・治打撲一方・通導散

④清化湿熱

湿熱の黄疸に、茵陳・山梔子などと用いる。

【方剂例】 茵陳蒿湯

水熱互結の結胸による心窩部～下腹が硬く脹って痛む・発熱などの症候には、芒硝・甘遂などと使用する。

【方剂例】 大陷胸湯

腸間の水気（腹水）による腹満・便秘・尿量減少などに、椒目・防已・葶藶子などと使用する。

【方剂例】 已椒藶黄丸

臨床使用の要点

大黄は苦寒沈降し気味ともに厚く、「走きて守らず」で下焦に直達し、胃腸の積滯を蕩滌するので、陽明腑実の熱結便秘・壯熱神昏に対する要薬であり、「斬関奪門」するところから「將軍」と名づけられている。また、攻積導滯し瀉熱通腸するため、湿熱の瀉痢・裏急後重や、食積の瀉痢・大便不爽にも有効である。このほか、瀉下泄熱により血分実熱を清し清熱瀉火・涼血解毒に働くので、血熱吐衄・目赤咽腫・癰腫瘡毒などの上部実熱にも用い、行瘀破積・活血通経の効能をもつために、血瘀経閉・産後瘀阻・癥瘕積聚・跌打損傷にも適し、湿熱を大便として排出し清化湿熱にも働くので、湿熱内蘊の黄疸・水腫・結胸にも使用する。外用すると、清火消腫解毒の効果がある。

[参 考] 生用（生大黄・生川軍・生錦紋・生軍）すると瀉下の力が強く、酒をふきかけ火で焙る（酒大黄・酒川軍・酒軍・酒洗大黄）と上部の火熱を清すると同時に活血行瘀の効能が強くなり、酒とともに黒色になるまで蒸す（製大黄・熟大黄・熟軍・製川軍・製軍・製錦紋）と瀉下の力が緩やかになって清化湿熱の効能が強くなり、炒炭（大黄炭）すると化瘀止血に働く。

[用 量] 3～12g，煎服。粉末を吞服するときは、1回0.5～1g。外用には適量。

[使用上の注意]

- ①瀉下の効果を得るためには、長時間煎じてはならない。後下する。
- ②峻烈な攻下破瘀の薬物であるから、実証でなければみだりに使用してはならない。
- ③妊婦・月経期・哺乳期には禁忌あるいは慎重を要する。

■ 芒 硝（ぼうしょう）

[処方用名] 芒硝・朴硝・玄明粉・元明粉・風化硝・風化朴硝・皮硝・硫酸ナトリウム

[基 原] 天然の含水硫酸ナトリウム $\text{Na}_2\text{SO}_4 \cdot 10\text{H}_2\text{O}$ または風化消 $\text{Na}_2\text{SO}_4 \cdot 2\text{H}_2\text{O}$ 。なお、古来の芒硝は結晶硫酸マグネシウム $\text{MgSO}_4 \cdot 7\text{H}_2\text{O}$ である。

[性 味] 鹹・苦，寒

[帰 経] 胃・大腸・三焦

[効能と応用]

①瀉熱通便・潤燥軟堅

胃腸実熱・燥屎内結による腹満・腹痛・便秘・高熱・意識障害・うわごとなどの症候に、大黄・枳実・厚朴などと用いる。

方剂例 大承気湯・調胃承気湯

水熱互結の結胸で心窩部から下腹部が硬く脹って痛むときに、大黄・甘遂などと使用する。

方剂例 大陷胸湯

②清熱消腫

咽喉のびらん・腫脹や口内炎に、竜腦・硼砂などと外用する。

方剂例 冰硼散

目の充血・腫脹・疼痛に、玄明粉の点眼薬あるいは冰硼散を外用する。

癰腫瘡毒（皮膚化膿症）あるいは痔核の腫脹・疼痛に、単味の水溶液で外洗する。

臨床使用の要点

芒硝は鹹苦・寒で、鹹で軟堅し苦で降下し寒で清熱し、瀉熱通便・潤燥軟堅の効能をもち、胃腸三焦の実熱を蕩滌し燥屎を除去する。それゆえ、実熱積聚の大便燥結・譫語発狂などを呈する陽明腑実証や、陽明の熱が水飲と結した結胸に適する。外用すると清熱消腫に働き、癰腫瘡毒・目赤喉腫口瘡などに有効である。

[参 考]

- ①加工の違いによりさまざまな名称がある。天然の鉱物を加熱水解したのち泥砂・雑質を除いた濾液を冷やして析出した結晶が「皮硝」であり、そのうちの上面に結した細芒が「芒硝」、底部にある塊状のものが「朴硝」である。芒硝を大根と同煎し不溶物を除去して冷却したのち、析出した結晶を風化させ脱水して白色にしたものが「玄明粉（元明粉）」である。「風化硝」は芒硝を風化脱水したもの、「風化朴硝」は朴硝を風化したものである。
- ②朴硝・芒硝・玄明粉の効能は基本的に同じであるが、朴硝は雑質が多くて瀉下の効力をもっとも強く、芒硝はやや純粋で瀉下がやや弱く、玄明粉はもっとも純粋で緩やかな効果をもつ。玄明粉は眼科の外用薬としてよく用いられる。
- ③大黄は苦寒で芒硝は鹹甘であり、熱結便秘に用いると相互に助けあう。《内経》の「熱は内に淫せば、治するに鹹寒をもってし、佐くるに苦甘をもってす」の応用であり、峻下熱結の効果が顕著に高まる。大黄は胃腸気分実熱を瀉すだけでなく、血分に入って涼血解毒・行瘀破積するので、血熱吐衄・目赤腫痛・経閉癥瘕にも用いる。芒硝は清腸軟堅に特長がある。

[用 量] 3～9g，冲服。外用には適量。

[使用上の注意] 妊婦には禁忌。